日本大学 桜樹会会報

第 13 号

昭和51年5月

日 本 大 学 桜 樹 会

目　　次

文芸作品の体操　浜田靖一 …… 2

1976年の体操界の展望　門脇春男 …… 4

これからの体操界に思う　遠藤幸雄 …… 11

桜樹会より4名のオリンピック選手誕生　稲橋恒行 …… 12

競技会成績 …… 13

昭和49年度会員総会報告 …… 16

昭和50年度決算報告 …… 18

昭和51年度　桜樹会役員 …… 19

〃　体操部役員 …… 19

〃　新入部員 …… 20

浜本正夫君支援カンパ報告　総務 …… 21

西ドイツの教育制度と学校体育　今村悟 …… 22

独語・体操用語　今村悟 …… 27

平野平三先生定年ご退官 …… 29

ゴルフコンペ成績 …… 29

会費領収について　総務 …… 31

お知らせ …… 33

編集後記 …… 33

文芸作品の体操

浜田靖一

こんな駄文で貴重な紙面をふさげることは気がひける。

実はここ数年来，ちょっと関心をもっている問題がある。それは作家とか小説家とかいわれる人達が，体操競技や器械体操に対してどんな興味をもっているだろうかということである。作家などとよばれる人達は昔から大体運動嫌いと相場が決っているし，スポーツなどには無関心な人が多かった。しかしこのごろはご時世とでもいうのだろうか，ゴルフやテニス，野球などをやる人もかなり出てきたようである。

また，どこの世界にも変り種という人種がおり，自殺してしまったが田中英光という人はボートのオリンピック選手だったし，石原慎太郎は高校時代サッカーの主将をやっていた。しかしさすがに体操は少ないようだ。

志賀直哉という人は鉄棒が上手で好きだったらしい。「速男の妹」という短編の中にも鉄棒をやるところが出てくる。「ふじ下り」などという技の名が出てくる。両足を鉄棒にかけてさかさに懸垂し，振っておりるやつである。

詩人の村野四郎は，体操詩集というのを出している。日大の芸術学部で会い，いろいろ体操の話をしたり，詩集も戴いた。惜しいことに2，3年前亡くなられた。

同じ頃，船橋聖一が講談社の紹介でひょっこり文理の体操場に現われたことがある。週刊現代というのに器械体操をテーマにした作品を発表するというので見学させてくれというのである。これは面白いというので，練習を一緒に見ながらいろいろ説明したことがある。しかし，驚ろいたことには，この有名な作家も体操に関する知識がほとんどない。たとえば，「あの平均棒（平均台のこと）は男はやらないのですか」という質問が出るしまつ，しかし作家とは偉いもので，こんな知識でも1ケ月位あとに出た週刊誌をみたら，確かに体操選手をテーマにした小説が載っていた。だが主人公の青年が体操をやっているというだけの色ッポイ小説で，体操の試合場面などは一回も出てこなかった。なぜ主人公が体操選手でなければいけないのか聞きもらしたのが残念である。

本屋の店頭で問題小説という雑誌をめくっていたら，「月下の鉄棒」という野坂昭如の作品が目についたので早速読んでみた。最近四畳半だか八畳間だかの裁判で世間を喜ばせているこの作家は，学生のころから鉄棒が好きだったらしい。

彼は小学生の頃，「ハイメン」「シンクウ」「チキュウマワシ」「ヒコーキ」などという技が得意で，彼が鉄棒をはじめると見物人が集るほどだったと言っている。作家になってから，少年

の頃鉄棒が上手だったのを思い出し，健康のためにと思い，家の庭に鉄棒をつくる。そして，「昔とったきねづか……　大車輪，け上りなど胡蝶のごとく身軽に宙を舞うわが姿を思い描いたのだが……。（身体に鉛が入っているようで一向に動けない。仕方がないので鉄棒に足をかけ，蝙蝠のように宙にさかさになったら，犬が驚ろいて肩にかみついたので頭から落ち，半月ほど鞭うち症まがいのけがをし，わきを見るにも身体ごと動かさなければならなかった。）そこで夜，酒を飲みつつ，月の光に照らし出された鉄棒の銀色の輝きを眺め，妄想の中で胡蝶の如く軽やかに演技し続ける姿を追い求める，というところでこの文は終っている。

また，このごろ発見したのであるが，谷崎潤一郎のごく若いころの作品で，「金色の死」というのがある。この物語は，岡村君という，富豪の子で頭脳もよく運動神経も発達した恵まれた少年の紹介から始まる。

彼は器械体操の名人で，家にも体操場をつくり，毎日わきめもふらず練習するのである。後年彼は，箱根に二万坪の土地を買い，そこに理想的な庭園や湯槽をつくり，ローマやギリシャ風の建築物をつくる。そこで全裸にさん然たる金粉をぬった岡村君は，人々に妙技を披露したあと，金箔のために身体中の毛穴がふさがれて死ぬのである。耽美的な谷崎作品の典型であろう。

三島由起夫も東京オリンピックの時，体操競技を美しい文でまとめているがいずれ紹介したい。

1976年の体操界の展望

モントリオール・オリンピックはもう始っている

ーブタペスト・モスクワ・リガ国際体操競技会に参加してー

副部長　門　脇　春　男

国際的に第一人者としてその活躍を認めさせるためには，必らず一度は通らねばならない競技会がある。それはリガ国際体操競技会であろう。過去，幾多の世界的な名選手がこの登竜門を目ざし，くぐり抜けて，オリンピック大会，世界選手権大会の晴れの檜舞台で活躍してきた。今回は，はからずもこの名誉ある大会に,13名の選手団を編成しその団長として参加することができた。さらにこれに関連した第1回ブタペスト国際選抜大会，第3回モスクワ・ニューズ杯などにも参加したので，この一連の遠征を通じて，みたり感じたりしたことをもとにして，第21回オリンピック・モントリオール大会の見通しなどを考えてみたい。

この選手団の本学関係者としては，女子トレーナー上野剛氏（第4回生・日大鶴ケ丘高勤務）男子選手五十嵐久人君（第14回生・日大文理勤務），寺元良人君（第16回生・カワイ楽器勤務）と私の4名である。

さて，今回の遠征はオリンピックの年とあって各国ともその国を代表する優秀な選手を出場させ，力試し，PRの絶好の場として捉え，大いに闘志を燃やしてきていた。日本は諸般の事情から，男子は前年度全日本選手権の上位8位～11位までの4名，女子は同じく若手を3名選んでの遠征であった。役員は，男子競技本部の伊藤政男氏（順大教員），研究部の鈴木昭寿氏（東海大教員），女子競技本部の芦原泰子さんと上野剛氏の4名で，それぞれいろいろな任務をもって参加した。審判員は終始冷静な判断と基準で対処し，体操の潮流を捉え資料の分析に務めた。上野氏は今回トレーナーとして（発表は女子専任であったが，現地では男女両方のリーダー，トレーナーとして務めてもらった）参加し，2人前，いや，ブタペスト，モスクワリガの各地では，独特の顔をきかせて日常の生活物資の調達から，全体の荷物の整理，管理まで，3人前以上の大仕事をやってのけた。

3月24日（水）午前11時40分，Su578便で発つ。羽田からモスクワまでの空の旅は丁度地球の自転の関係で，太陽と一緒になって飛んだ恰好となり，10時間乗っていても16時10分着という日の暮れない長い一日となった。

私達の最初の競技地はハンガリーのブタペストであるため，モスクワは通過者扱いとなっていたが，ソビェト体操連盟の計らいでモスクワ

川のほとりにあるウクライナ・ホテルに宿泊することができた。このホテルは私にとって大変なつかしいところで，１７年前の初遠征で泊ったときとなんら変らぬ佇いをみせ，相変らず待ち時間の長い（５分～１０分は普通）エレベーター，少し時代がかった調度品など，当時を偲ばせてくれた。なぜかここに着いてほっとしたのは，なつかしさと同時に，長い空の旅から開放されたことや，旅行者にとって極めて非能率的と評判の悪いモスクワ空港での入国手続きが，招待者ということもあってかフリーパスに近い早さで通過できたことからかもしれない。

部屋割り，パスポートの回収などで貴重な時間があっという間にすぎ，長い一日も暮れていった。もっともソビエト側の好意で，夜はボリショイサーカスの特別見学という楽しいひとときもあった。

３月２５日（木）午前６時にホテルロビーに集合，８時４０分発Ｓｕ１３１便で小雪の舞うシェレメチェボ国際空港を発ち，１時間の旅ののち９時２０分ブタペストのフェリヘジィ空港に到着した。

ブタペスト

気候が，私達の出発したときの東京と大変よく似ており，街路樹の若葉や，花の色彩も鮮やかであり，いかにも春がやってきたという感じだった。

ブタペストはハンガリーの首都であり，ヨーロッパでも指おりの自然美に恵まれ，伝統ある文化と暖い人情のある街である。西ドイツ東南部に発するドナウ川は，オーストリアを通り，悠々と流れてこの街をブタ地区とペスト地区に２分している。私達はこのドナウ川上流の岸辺にある体協のスポーツクラブ宿舎に旅装を解いた。鉄筋４階建で，ハンガリーのスポーツ選手が合宿するところとのことで，清潔な部屋とすばらしい環境に恵まれていた。私達は３階にある７部屋に，２５日～３１日までの１週間滞在し，家族的な雰囲気のなかで充分体調を整えることができた。

日程

３月２６日規定，２７日自由，２８日種目別，

(注) 種目別はオリンピックシステム通り１ケ国２名ずつ。

参加国

男子　日本(3)，ハンガリー(5)，ルーマニア(2)，西ドイツ(1)，スイス(2)，北朝鮮(4)
計６ケ国１８名

女子　日本(3)，西ドイツ(2)，ハンガリー(9)，ルーマニア(2)，イタリア(3)，ポーランド(3)，ブルガリア(2)，北朝鮮(4)，
計８ケ国２８名

成績

男子個人総合		規定	自由	計
1位	岡村輝一(日)	55.55	56.95	112.50
2位	マジャール・ゾンタル(ハ)	54.70	56.45	111.15
3位	五十嵐久人(日)	54.80	55.55	110.35
〃	モルナー，イムラ(ハ)	55.30	55.05	110.35
5位	ドウナス・ヘレンツ(ハ)	53.55	55.00	108.55
6位	キン・ツェン・ジン(北)	53.40	54.85	108.25
17位	寺元良人(日)	53.40	45.90	99.30

種目別（五十嵐選手）

ゆ　か：足のケガを考え出場させず。

あん馬：フィニッシュ失敗（8.95）6位

つり輪：技の内容もよく，特にスィング良好（9.15）3位

平行棒：鉄棒のことを考え出場させず

鉄　棒：実にすばらしく調子を上げる（9.65）2位

(注) 1. 五十嵐は5種目出場の権利を有するも競技規則で許されている範囲内で考慮し，3種目出場とした。

2. 寺元は，個人自由ゆかは足のケガにより，本人の申し出もあり棄権させたが，9.20以上とれば個人総合5位に入っている。

所感：ハンガリーはホスト国として，世界の第一人者マジャール（あん馬の世界チャンピオン）とモルナーを出場させ，難度の高いものを積極的に実施した。注目すべきは跳馬の規定（馬尾着手の屈身とび）の演技で，踏み切板を1.80～2.00mはなし，着地地点も1馬身は楽にとび越えていたことである。従って，日本選手よりはるかにダイナミックであり，第1，第2を問わず空間姿勢が実にのびのびしていた。日本で現在行なわれているとび方が実に小さく，瞬間的なものにしかみえないというのは一考を要する大きな問題であると思われる。

因みに規定の得点上位者をみると，マジャール9.25，モルナー9.35，シバト9.25，ラウクェール9.20，ドウナス9.10（以上ハンガリー）岡村9.25，清水9.25，五十嵐8.95（失敗）という具合に，圧倒的にハンガリー勢は強かった。

他の種目では，日本は振動系が強く，特に平行棒，鉄棒では得点のうえでもそれがあらわれている。しかしつり輪では，日本の振動系の技に対する他の国の審判の評価は低く，かえって力技にその力点があったように感じられた。これは審判技術の未熟さからくるものなのか，日本が力技よりもスイング系に重点をおきすぎることなのか，あるいは今回の遠征メンバーが力技のキメが弱いことからくることなのか，この辺の判断は少し難しいことである。とにかくこのことは，モスクワ・ニューズ，リガ大会でどうとらえているのか，結論はあとにゆずることにしょう。

女子はハンガリーが完全に仕上っており，いまここに日本のトップクラスをもってきてもとても勝目はないだろう。

1位	エゲルバリ・M	(ハ)	75.91	（19才）
2〃	オーバリ・E	(ハ)	75.60	（14才）
3〃	ケルメン・M	(ハ)	74.35	（21才）
4〃	トオス・M	(ハ)	74.34	（15才）
5〃	ロベィリ・M	(ハ)	73.93	
6〃	マタライ・Z	(ハ)	73.41	

(注) 1. 1～4位までの選手は1昨年，昨年に来日している。

2. 日本選手は，20位小林，25位赤羽，27位森田

モスクワ・ニューズ杯

さて，３月３１日（水）ハンガリーチームと一緒にモスクワに戻った私達は，再びウクライナホテルに入った。

４月１日午後２時４５分，日航機で前田義徳日本体操協会々長夫妻がモスクワへ到着，選手団と日程をともにすることになった。

前田会長は，昨年の国内の主な競技会であるＮＨＫ杯，国体，全日本，中日カップ等をじっくり見ており，今年は国際競技会を，との希望をもっていたところへソビエト体操連盟より特別招待があり，今回の遠征となったしだいである。私達は百万人の味方を得た感じでいよいよ張り切らざるをえなくなった。

このモスクワ・ニューズ杯は第３回目を迎えたが，過去日本の選手は１９５７年の世界青年友好祭以来ほとんど毎年のようにこのモスクワにきて競技をしてきている。会場となったスポーツパレスは，東京オリンピックの際，ここの演技台をモデルにしたというだけに実に立派な設備のある体育館である。今回の遠征メンバーである若手選手にとっては，先輩の活躍の跡を偲び，感無量のものがあったと思われる。私にしても，１９５９年この会場で初対面であった当時のソビエト若手ナンバーワン，ユリー・チトフ氏が，現在ソビエトの全権を握り，ＦＩＧの副会長として活躍し，さらには今夏のモントリオールでのＦＩＧ総会で会長に立候補することなど耳にし，今更のごとく時の流れの早さに驚いたしだいである。

参加国

男子　日本(4)，ソビエト(4)，北朝鮮(4)，ハンガリー(2)，ルーマニア(3)，チェコ(2)，アメリカ(3)，ポーランド(2)，カナダ(3)，ノルウェー(2)，ブルガリア(2)，オランダ(2)，フィンランド(1)，モロッコ(2)，アルジェリア(2)，キューバ(2)，ギリシャ(2)，

計１７ケ国４３名

女子　日本(3)，ソビエト(3)，カナダ(3)，北朝鮮(4)，ルーマニア(2)，アメリカ(3)，チェコ(3)，ハンガリー(2)，ポーランド(3)，オランダ(3)，イギリス(1)，ノルウェー(1)，スェーデン(1)，キューバ(3)，フィンランド(1)，ブルガリア(2)，ポルトガル(2)

計１７ケ国４０名

大会の運営と規模，器具について

規定は突然やらないことになった。（多分日本がトップクラスを出さないことと，全体的日程上の都合によるものと思われる）

４月２日男子自由，３日女子自由，４日男女種目別

私達にとって規定がなくなったことにより，気分的に楽になり，自由演技に全力を集中するとともに，ソビエトをはじめとする有力選手の動きをじっくりと観察することができた。

男子は６班に分けて４人制審判，女子は８班に分け４人制審判であった。器械は全てソビエト製で，木製品は日本のものより弾力性に富んでおり，慣れないと思わぬ失敗がでる。記録の速報は２人の専任タイピストがおり，種目終了後５～１０分ぐらいの間に，英文と露文とで

印刷配布されるのには驚きを感じた。

成績.

男子1位	マルチェンコ・V	(ソ)	56.85
2〃	シャムギア・P	(ソ)	56.35
3〃	チホノフ・V	(ソ)	56.30
4〃	岡村輝一	(日)	55.85
5〃	ヤクーニン・G	(ソ)	55.75
6〃	寺元良人	(日)	55.25
7〃	マジャール・Z	(ハ)	54.85
9〃	五十嵐久人	(日)	54.20

（評）寺元は調子よく全体に張りのある演技がみられ上位にくい込んだ。

五十嵐はあん馬，平行棒で惜しいミスをして9位に甘んじたが鉄棒では素晴らしい演技をみせてくれた。

ソビエト勢はアンドレアノフ，ヂチャーチンが参加せず，若手のマルチェンコ，シャムギア，ヤクーニン，チホノフ，ネドバリスキー（チホノフ，ネドバリスキーは特別参加，55，55）らが，自分の持てる力を存分に発揮し，何んとかしてオリンピックの代表権を得ようと一生懸命やっている姿は感動的であった。日本の若手もこうした態度を真剣に見習ってほしいと感じた。

彼等の技はそれぞれ独自の持味があり，若手中心のチーム編成であっても，日本として安閑としてはいられないだろう。

種目別

つり輪	⑤	五十嵐	9.20	9.25	18.45
鉄棒	①	五十嵐	9.55	9.55	19.00
	⑤	寺元	9.40	9.50	18.90

女子1位	グロズワ・スベラーナ	(ソ)	38.20
2〃	フエラトワ・マリア	(ソ)	37.60
3〃	シャポシニコワ・ナタリア	(ソ)	37.40
4〃	ヒューブネル・ロビン	(ア)	36.85
5〃	シャパロ・シャロン	(ア)	36.50
5〃	キム・チュン・セン	(北)	36.50

リガ大会

モスクワでの競技会終了後，直ちにリガへ向う。モスクワ・ニューズ杯に出場した全選手団約120名が午後8時40分発の夜行寝台列車に乗り込むため，ウクライナホテルよりバス8台に分乗，小雪の降るモスクワ市内を行進。駅では選手団のバスを直接ホームに乗り入れ乗車させてくれる。日本ではちょっと考えられないことだ。定刻より少し遅れての発車だったが，4人部屋の寝台車は広く快適だった。間もなく役員達が集まり，ハンガリーの審判員ウルバリー氏を交えて話に花が咲き，痛快なひと夜を過ごす。

4月5日（月），午前10時28分，ボタ雪の降るリガ駅に到着，チューリップやカーネーションの花を持って地元関係者が迎えてくれる。街の中心地にあるリガホテルに入ったのは11時を少し廻っていた。

リガはフィンランドにバルト海を船で2時間位，ポーランドには汽車ですぐである。

この街の歴史は，ヨーロッパと海に近いせいか，ポーランド，ドイツ，白軍，赤軍の戦場となっ

た由で，たえずいろいろな問題の渦中にあったらしく，バスガイドもしきりに戦争の話をしていた。街の感じは，古いがなんとなく明るさがあり，旧市街地の一角を除けば全体として整然としており，公園や小さな川など自然環境もすばらしいところだ。

体育館はアイスホッケー場を主としたものであり，現に4月8日競技終了と同時にアイスホッケーの国際試合が組まかていた。従って今回の競技会は，氷の上にベニア板を張り，その上に仮設の舞台をつくって行なわれた。

ここでの競技会は第6回を迎え，春の訪れを告げる競技会として完全にリガ市民に密着している感じを受けた。なお，日本での中日カップとは姉妹提携のような形になっている。私達は約半月の間に3回の競技会に出場し，しかもこのリガ大会を最大の目標にしてきているだけに，なんとかしてベストの状態で試合に臨むべくトレーニング計画を配慮した。

参加国

男子　日本(4)，ソビエト(4)，ルーマニア(3)，ブルガリア(2)，フィンランド(1)，カナダ(1)，オランダ(2)，キューバ(1)，アメリカ(3)，ノルウェー(3)，ギリシャ(2)，モロッコ(2)，チェコ(2)，アルジェリア(2)，ハンガリー(2)，ポーランド(2)，計16ケ国37名

女子　日本(3)，ソビエト(4)，イギリス(1)，チェコ(3)，キューバ(3)，ハンガリー(2)，ポーランド(2)，ポルトガル(2)，スェーデン(1)，フランス(3)，オランダ(2)，カナダ(3)，フィンランド(2)，ブルガリア(2)，アメリカ(3)，ルーマニア(2)，ノルウェー(1)　計17ケ国39名

成績

男子1位	マルケロフ・V	(ソ)	56.70
2〃	シェデイク・A	(ソ)	56.10
3〃	マジャール・Z	(ハ)	56.05
3〃	サフローノア・V	(ソ)	56.05
5〃	五十嵐久人	(日)	55.80
6〃	岡村輝一	(日)	55.60
7〃	清水順一	(日)	55.20
11	寺元良人	(日)	54.25

種目別

つり輪	②	五十嵐	9.50	9.55	19.05
跳馬	⑤	寺元	9.55	9.275	18.825
平行棒	①	五十嵐	9.45	9.55	19.00
鉄棒	⑤	寺元	9.40	9.35	18.75
	⑥	五十嵐	9.50	9.20	18.70

女子1位	フェラトワ・M	(ソ)	38.45
2〃	ダビィドバ・E	(ソ)	38.10
3〃	ボグダノワ・L	(ソ)	38.10
4〃	スモリコワ・D	(チェ)	37.10
5〃	ゴンチェンコ・L	(ソ)	36.60
〃	スリボワ・T	(チェ)	36.60

（評）ソビエトは3月27～28日アメリカン・カップで大活躍した若冠19才のマルケロフ・V（U. S. A. Cup　1日目自由①56. 60　2日目自由②56. 35）を直ちにリガに呼んで，56. 70という記録で優勝させたのは大きい。これでソビエトのオリンピックメンバーはほぼ確定した感がある。

アンドレアノフ，ディチャーチン，マルケロフ，そしてマルチュンコかヤクーニンか，チホノフか，あるいはシャムギヤ，ニェドバリスキー，トカチョフなど，とにかく若手があとからあとから群をなして続いている。彼らは思い切りのいい技，難度の高い技に積極的に挑戦し，それぞれのコーチとともにがむしゃらに演技してくる。オリンピックまであと3ケ月，これらの若手が熟練性，習熟度を高めたら日本は一体勝てるのだろうかとの不安を強めた。

ソビエト以外では，ハンガリーのマジャールが，ゆかで後方宙返り ½ ー前方2回宙返りを入れたり，平行棒でも新しい工夫をこらしているのが目立ったが，まだまだ未完であり，本人はしきりに調整中だからといっていたがこの組み合せではかなり難しいだろう。

チェコのダバックは，小柄ながらも馬力のある選手で，ゆか，跳馬では大変いいものをもっており，オリンピックで日本選手とこれらの種目を争うだろう。

あん馬は，マジャールが6回の自由演技で，ブダペスト9.90，10.00 モスクワ9.65，9.80 リガ9.75，9.90 の得点をあげており，オリンピックでの優勝はまず間違いないだろう。

まだまだ報告することはあるが，紙面の関係もありこの辺で筆を置くが，世界の流れは前述の如く刻々と変ってきている。日本がもしここで敗れるようなことがあると，あと２０年，いや永久に優勝の座につけなくなるかもしれない。ソビエトのあの体制からして，１９６０年のローマで日本に破れて今日まで１６年間，1980年のオリンピックモスクワ大会ではどんなことがあっても日本を破ることを考えているだろう。

モントリオールはその準備期間として若手の育成に全力をあげている。そして彼等が思いもかけない活躍をするように思えてならない。私はそこに不安を覚えずにはいられないのである。それが私の思いすごしならばいいのだが----。

これからの体操界に思う

監督　遠藤幸雄

ローマオリンピック以来，負けを知らずにモントリオール大会の年を迎えたわけであるが，世間では体操は放っておいても……と全く危機感をもっていない。

しかし，果して前途に不安はないのだろうか。こんにちまでの勝利は，第一に地理的悪条件のなかで，常に不安な要素があり，それが逆に選手たちを支えてきたことにあるといえよう。第二はベテランと若手のバランスがよかったということである。

現在の日本体操界の現状を思うに，アキレス腱は前記の第二にあるように思う。すなわち年令的に外国と比較して選手の老化が目立ち，例えばベテランと梶山選手の年令差を考えると，学生をあずかる一人として反省させられる。

モントリオール大会は，早田新チームリーダーを中心に，栄光の記録を打ち立てると確信しているが，さらに4年後のモスクワ大会となると，日本体操界として相当な覚悟を決めて取り組まねばならないだろう。

ソ連は，オリンピック主催国として，モスクワ大会を成功させるために，総力を結集して打倒日本の秘策を練っている。その足掛りとして，モントリオール大会と2年後の世界選手権（パリ)を目指し，着々と準備を進めていると思われる。それは昨年の日ソ戦，本年のモスクワ，リガ大会の結果を分析しても把握できる。

このように，ソ連はすでに4年後のモスクワ大会に照準を合わせレール上を走り出している。したがってモントリオール大会後，日本としては2年後のパリ対策と4年後のモスクワ対策の二本立てで計画を立てることが急務であろう。

あとになりましたが紙面をおかりし，昨年浜本正夫君のために，桜樹会の皆様から過分のご厚志をいただきましたことを，監督として深く感謝申し上げます。

桜樹会より４名のオリンピック選手誕生!!

会長　稲　橋　恒　行

皆様すでにご存知の通り，オリンピック・モントリオール大会の男女選手が決定しました。本会からは，梶山広司（１７回卒），五十嵐久人（１４回卒），山崎（旧姓矢部）信恵（１５回卒），林田房美（１６回卒）の各選手がみごと代表の座をかちとりました。さらに男子コーチとして遠藤幸雄（顧問），チームリーダーとして早田卓次（４回卒），女子審判員として木村多喜（４回卒）の各氏が遠征に加わります。

このように本会関係者が晴れのオリンピックの舞台で活躍されることは，われわれ桜樹会にとって名誉でもあり誇りでもあります。

特に梶山，五十嵐の両選手は桜樹クラブ所属の選手として出場し，テレビ，新聞等を通して本会の存在を天下に示してくれました。

また男子の最終選考会には，錦井利臣（１６回卒），寺元良人（同），千田修平（４年生）の三君も出場し，若手らしいはつらつとした演技で最後まで健斗しました。

インカレ３連勝の快挙に次いで，桜樹会から４名のオリンピック選手が誕生したことは，今や日大の体操が日本体操界で確固たる地位を築いたことを示していると確信します。

関係各位の努力に対し心から感謝いたしますとともに，本番での活躍を大いに期待したいと思います。

なお，本会関係の選手役員の壮行会を別掲の通り開催いたします。この喜びをみんなで分かち合いたいと思いますので多くの方々の参加を心からお願い申し上げます。

競　技　会　成　績

第９回　東日本学生選手権

５０.６.２０　　弘　前　市

（男子）

団体総合	優勝		２７２.３５
個人総合	１位	梶山　広司	５６.４５
	３位	前山真一郎	５４.５５
種目別　ゆ　か	１位	梶山　広司	9.４５
	２位	千田　修平	9.２５
	２位	前山真一郎	9.２５
	２位	鈴木　一弘	9.２５
あん馬	１位	梶山　広司	9.４０
つり輪	１位	梶山　広司	9.６５
	４位	前山真一郎	9.１５
跳　馬	５位	梶山　広司	9.３５
	５位	鈴木　一弘	9.３５
平行棒	１位	梶山　広司	9.２０
鉄　棒	２位	梶山　広司	9.４０

（女子）

団体総合	３位		１７１.７５
個人総合	５位	山宮登美枝	３５.９０
種目別　平均台	２位	山本　恭子	.9.４０
	４位	山宮登美枝	9.１５

第２９回　全日本学生選手権

５０.８.１４～１７　東　京

（男子）

団体総合	優勝		５４５.３０
個人総合	１位	梶山　広司	112.45
	５位	前山真一郎	108.80
	６位	千田　修平	108.10
	８位	鈴木　一弘	107.90
	１５位	松本　俊一	105.05
	１８位	松田　　祥	104.85
種目別　ゆ　か	１位	梶山　広司	18.900

（女子）

団体総合	３位		３５３.１０
個人総合	９位	山宮登美枝	71.15
	１２位	萩原美知子	70.85
種目別　平均台	５位	山宮登美枝	16.825
	６位	山本　恭子	16.650

	2位	前山真一郎	18.775
	4位	鈴木　一弘	18.475
あん馬	1位	梶山　広司	18.650
	5位	千田　修平	18.075
つり輪	1位	梶山　広司	18.725
	3位	前山真一郎	18.025
跳　馬	1位	梶山　広司	18.500
	3位	神田孝一郎	18.325
	4位	前山真一郎	18.150
	5位	鈴木　一弘	18.125
平行棒	1位	梶山　広司	18.925
鉄　棒	2位	梶山　広司	18.975
	6位	前山真一郎	18.075

第２９回　全日本選手権

５０.１０.９.～１２　長　野

（男子）

団体総合	3位		
個人総合	1位	梶山　広司	
	16位	前山真一郎	
	20位	千田　修平	
	25位	鈴木　一弘	
種目別　ゆ　か	3位	梶山　広司	
あん馬	1位	梶山　広司	
	3位	千田　修平	
つり輪	1位	梶山　広司	
跳　馬	3位	梶山　広司	
	5位	前山真一郎	
鉄　棒	4位	梶山　広司	
平行棒	1位	梶山　広司	

（女子）

団体総合	3位	

関東学生新人戦

50.11.11～12　駒沢

（男子）

団体総合	2位	267.50	
個人総合	4位	慶田　盛定	53.85
	5位	藪野　睦明	53.25
	6位	後閑　文昌	53.10
種目別　ゆか	5位	慶田　盛定	9.25
	6位	井上　祐二	9.20
あん馬	2位	水田　靖夫	9.25
	3位	井上　祐二	9.00
	5位	後閑　文昌	8.80
跳馬	1位	藪野　睦明	9.50
	2位	後閑　文昌	9.40
	6位	朝倉　和幸	9.20
平行棒	2位	慶田　盛定	9.10
	3位	水田　靖夫	9.05
	5位	後閑　文昌	9.00
鉄棒	1位	慶田　盛定	9.40
	5位	水田　靖夫	9.15

（女子）

団体総合	3位	172.85	

P16より　TBS男子種目別

平行棒	1位	金居　俊郎	9.00
	3位	慶田　盛定	8.95
	3位	松田　洋	8.95
鉄棒	1位	松本　俊一	9.35
	2位	慶田　盛定	9.10
	4位	境　保則	9.05

第6回　TBS杯

対日体大定期戦

51.4.10　東京体育館

（男子）

団体総合	2位	312.975	
種目別　ゆか	1位	千田　修平	9.35
	3位	井上　祐二	9.00
	6位	村上　秀宣	8.90
あん馬	2位	千田　修平	9.10
	4位	松田　洋	8.90

（女子）

団体総合	2位	197.05	
種目別　跳馬	3位	今井久美子	9.15
	4位	伊藤三千子	8.95
	5位	萩原美和子	8.85
平行棒	6位	萩原美和子	8.65
	6位	今井久美子	8.65

あん馬	5位	金居　俊郎	8.80
つり輪	2位	松本　俊一	8.95
	4位	金居　俊郎	8.90
跳　馬	2位	松本　俊一	9.175
	5位	藪野　睦明	8.925
	6位	神田孝一郎	8.900
平均台・	4位	小田　武子	8.60
	5位	山本富士子	8.40
	6位	鶴　　鈴子	8.20
ゆ　か	4位	萩原美和子	8.90
	5位	小川美弥子	8.80

昭和49年度会員総会報告

昭和49年度会員総会は，諸般の事情により会則に定める3月第3日曜日の開催が不能となり，幹事会で検討の結果，インターハイが東京で行なわれるところから，その会期に合わせて50年8月7日開催された。

当日，総会は午後5時30分より体育協会で，また，その後会場を原宿駅前の南国酒家に移して懇親会が催された。

懇親会には，選手を引率して上京した会員多数が参加し，近来になく盛大なものとなった。

以下は，その総会，懇親会の概要である。

総会日時　昭和50年8月7日（木）
　　午後5時30分より

場所　日本体育協会301号室

出席者

第1回卒　稲橋恒行，石井征也
第2回卒　堀田淳二
第3回卒　早乙女貞夫，藤谷弘一
第4回卒　上野　剛，菊地君男
　　早田卓次
第5回　　志賀正昌，波多野伸
第6回卒　鶴見興人
第7回卒　海谷美代子
第8回卒　近藤盛一，船木政明
第9回卒　今村　悟
第10回卒　高波司雄，津村二郎
　　箱根　修
第11回卒　宇野正信，大塚文夫
　　工藤昌二，綱島路正
　　山本好隆
第14回卒　外山宣男
第15回卒　谷田部光則
第16回卒　西巻洋一，山田晴一
　　以上　27名
　　委任状　　89名分

挨拶　会長　稲橋恒行

議長及び書記選出

議長　石井征也
書記　海谷美代子

報告

1. 昭和49年度事業及び行事報告について
総務，鶴見より報告（会報第12号P4参照）

2. 昭和４９年度決算報告

総務　菊地より報告（会報第12号P５参照）

3. 会計監査報告

会計監査，堀田より報告

（会報第12号P５参照）

4. その他

(1) 浜本正夫君支援カンパについて

総務　菊地より報告（本誌Ｐ２１参照）

(2) ５０年度中間会計報告

総務，菊地より報告

議題

1. 会則改正について

第１１条，会員総会々期の変更案が出され，検討の結果幹事会に一任する旨決定。

（注）５１年４月２８日幹事会において会則第１１条を次のように改正することに決定した。

第１１条　会員総会は年１回行なう。

尚５０年度総会は９月上旬，東京にて開催することに決定。

2. 役員改選

会　長　　稲橋恒行（留任）

副会長　　石井征也（　〃　）

　　平川文雄（　〃　）

懇親会

会場　南国酒家

会費　5,０００円（女子会員3,０００円）

出席者

顧問	遠藤幸雄，門脇春男
第１回卒	石井征也，稲橋恒行
2	堀田淳二
3	金子正史，早乙女貞夫，米田賢一
4	上野　剛，菊地君男，田野　哲 早田卓次
5	金子洋平，志賀正昌，波多野伸
6	鶴見興人
7	海谷美代子，苅込和男，前田千賀志
8	近藤盛一，橋口泰武，船木政明， 山内　悟
9	赤松正致，今村　悟
10	高波司雄，千野良一，津村二郎， 箱根　修
11	宇野正信，大塚文雄，工藤昌二， 綱島路正，原　弘吉， 山本好隆
13	塚田和茂，塚田千津代，徳永富夫 中谷秀明，中村栄喜
14	青木文次，五十嵐久人，遠藤　勲 田中章二，外山宣男，中島　孝
15	市毛美喜雄，林富久寿，福田久恵 谷田部光則
16	椎名　厚，寺元良人，西巻洋一， 林田房美

昭和５０年度　決　算　報　告

（昭和51年４月28日の幹事会に報告）

収　入　の　部

項　目	金　額	備　考
繰越金	158,243	
会費	295,000	過年度分 42,000　50年度分 189,000　次年度分 64,000
雑収入	60,383	懇親会余剰金，カンパ残金，利息等
合計	513,626	

支　出　の　部

項　目	金　額	備　考
補助費	100,000	Ⅰ．C補助，Ⅰ，C３連勝祝勝会補助等
会議費	5,200	幹事会室代，総会茶菓代
事務通信費	17,415	会報１２号，名簿送料等
印刷費	124,960	会報，名簿，通知書等
雑費	15,235	口座手数料，事務用品代等
予備費	10,000	香典２件
次年度繰越金	240,816	
合計	513,626	

昭和５０年度収支決算を以上の通り報告いたします。

昭和５０年３月３１日

日本大学桜樹会総務
菊地君男
鶴見興人

監査の結果，相違なきことを確認する。

昭和５０年３月３１日

日本大学桜樹会会計監査
堀田淳二
芳尾明

※　５０年度会員総会はまだ開催されておりませんが，幹事会の了承を得て，会計年度３月末日を以って決算報告いたしました。

昭和51年度　桜樹会役員

会　　長　稲橋　恒行
副会長　石井　征也，平川　文雄
幹事長　吉川　　輝
総　　務　菊地　君男，鶴見　興人
会計監査　堀田　淳二，芳尾　　明
幹　　事　上野　　剛，高田　信興
　　朝倉　徳雄，津村　二郎
　　外山　宣男，寛山　秀成
　　宮本　敏子

（競技部担当）　原　　弘吉，五十嵐久人
（編集部　〃　）　小松　武雄，海谷美代子
（指導部　〃　）　早田　卓次，木村　多喜
（審判部　〃　）　小栗　郁郎，門脇　　隆

ブロック幹事

北海道　中島　元　　近　畿　小柴守夫
東　北　宇野正信　　中　国　常井晴道
関　東　苅込和男　　四　国　山崎智彦
東　海　辻岡　寛　　九　州　堀田敏明
北　陸　船本政明

昭和51年度　体操部役員

部　　長　浜田　靖一
副部長　門脇　春男
監　　督　遠藤　幸雄
コーチ　早田　卓次，木村　多喜，
　　上野　　剛，海谷美代子，
　　五十嵐久人，梶山　広司
男子主将　千田　修平（文4）
　　副将　福田孝一郎（　〃　）
女子主将　小川美弥子（　〃　）
男子主務　大友　栄紀（　〃　）
男子副務　中村　秀二（文3）
女子主務　鈴木智加子（文4）
　　副務　吉野こずえ（文2）
学　　連　久保田一行（文4）
　　高橋　和秀（文3）
　　山崎　常雄（文2）
　　三原加津子（文4）
　　西村久美子（文3）
　　中村　恭子（文2）

昭和51年度 新 入 部 員

〔男子〕

氏名	出身県	高校
遠藤 孝之	宮城	仙台育英
平田 倫敏	大阪	清風
水島 克己	岡山	〃
片山 雅道	大分	佐伯鶴城
関 信之	茨城	土浦日大
中村 秀也	北海道	旭川大学高
山脇 恭二	大分	佐伯鶴城
矢木 幹男	岡山	関西
柏谷 錦一	秋田	秋田工業
鹿野 久	山形	日大山形
本池 浩次	鳥取	米子北
山下 敦	兵庫	葺合
松永 二郎	静岡	駒場学園
田中 康義	宮城	仙台第三
西川 裕二	千葉	大多喜
大村 広之	山梨	日大明誠
酒田 隆	秋田	大館鳳鳴
平沢 利彦	長野	赤穂
山崎 至	岩手	盛岡一
岩井 高志	愛知	向陽
高見 等	千葉	千葉日大一

〔女子〕

氏名	出身県	高校
磯部 育子	岐阜	中京商業
鮎合みのり	徳島	徳島商業
白井 律子	神奈川	二階堂
西沢真理子	福井	武生
鶴 鈴子	福岡	九州女子
三本松純子	鳥取	米子商業
相沢 潔美	宮城	常盤木学園
小島 真理	神奈川	高浜

浜本正夫君支援カンパについての報告

総　務

昨年6月10日付で元体操部員浜本正夫君に対する支援カンパをお願いいたしましたところ，皆様からあたたかい励ましの言葉とともに心のこもった送金が相次ぎました。

カンパは20万円に達した8月16日，遠藤監督を通じて浜本君にお贈りいたしました。また，その後の送金については本会会計に繰り入れましたのでご了承下さい。

皆様のご協力に感謝いたしますとともに，報告が遅れましたことを深くお詫び申し上げます。

尚，カンパにご協力いただいた方々の氏名を下記に掲載いたしましたが，送金額については，公表を控えました。詳細について幹事会の監査を受けておりますのでご了承いただきたいと思います。

浜本正夫君支援カンパ協力者氏名

（受付順）

谷田部光則	早川　尚夫	森田　博	平野　文世	中谷　秀明	安藤　泰行
小柴　守夫	柄沢　康弘	工藤　昌二	菅原　明雄	渡辺　和子	水口　始女
近藤　明	外山　宣男	川野　耕二	小栗　郁郎	近藤　盛一	高田　信興
原　弘吉	石井　征也	朝倉　徳雄	戸沢　滋	浅田　泰男	保坂　弘一
鶴見　興人	海谷美代子	橋口　泰武	工藤　道弘	三鼓　章平	川口　亨
高波　司雄	山本　好隆	平川　文雄	村上　吉正	藤田　幸男	椎名　厚
平野　平三	諸岡　嘉春	伊藤　勇	椎野　芳挙	森　重樹	藤沢　秀男
上野　剛	阿部　稔	小俣里知子	山内　悟	大塚　文夫	塚田　和茂
松本　恭子	今西　悦子	松岡　範孝	稲橋　恒行	志賀　正昌	波多野　伸
菅野　秀俊	籾山　芳雄	松田　明	船木　政明	堀田　淳二	中島　元
岩沢　稔	千葉　本子	早田　卓次	飯島　好美	吉川　輝	仲西　盛光
若林みどり	金子　正史	浜田　靖一	平野　昌宏	森山　理	芳尾　明
山崎　雅昭	山田　隆士	木村　多喜	千野　良一	鈴木　康夫	斉藤　由子
佐藤　勲	菊地　君男	相原　和明	酒井　博行		
堀田　信二	佐藤　誠	島崎　康行			

計　85名

総額　211,000円

浜本君へ　200,000円

本会へ　11,000円

西ドイツの教育制度と学校体育

今　村　　悟（第9回卒）
1972年11月より西独在住

西ドイツにおける教育制度は州によって若干の差がある。西ドイツはアメリカと同じように連邦国家なので（アメリカ程ではないが）大体の実権は州が握っている。国家も教育を各州に任せてある。当然各州は，州知事から各大臣をもっており一つの国家と同じような働きをする。

西ドイツは11州から成り，ハンブルグとブレーメンは市がそのまま州になるという昔からのハンザ都市（Hansa Stadt）として独立している。両市の自動車ナンバーは，HH,HB（ハンザ都市ハンブルグ，ハンザ都市ブレーメンの意）というプレートがついている。

各州は各々の学校行事を決める。例えば，夏休み，冬休み等すべて違うのである。また面白いことに，宗教的祝日の多いこの国では，カトリックの多い南ドイツとプロテスタントの多い北ドイツでは祝日が違っており，南ドイツは休みでも北ドイツではせっせと働いているようなことがある。ヨーロッパの多くの国は今もなおキリスト教の影響が強く，それが教育の面にも及んでいる。学校は各々週二回宗教の時間が必修として設置され，カトリック（Katholisch）とプロテスタント（Evangelisch）に分かれてそれぞれの神父（Pastor または Pater）がきて授業を行なう。

それでは西ドイツの教育制度について述べてみよう。まず，6才～7才になるとグルントシューレ（基礎学校）に入学し4年経つと生徒は次の3つの学校に進む。ハウプトシューレ，リアルシューレ，ギムナジウムである。生徒は各自の学力に応じ各学校を選ぶ。

ハウプトシューレ（Hauptschule）は5年制で計9年間の義務教育である。リアルシューレ（Realschule）は6年間，ギムナジウム（Gymnasium）は9年間の学校である。各学校はグルントシューレから通して，例えば13年生と呼ばれギムナジウム9年生とはいわない。

昔からの伝統でハウプトシューレ（中央学校）と，リアルシューレ（実科学校）は将来の職業を選ぶ予備学校である。しかし業績の良い生徒はリアルシューレ卒業後ギムナジウムに入学できるし，あるいはハプトシューレからリアルシューレにも入学できる。（法律が改正される前はリアルシューレからギムナジウムには進めなかった。）

ギムナジウムは大学へ進学するための高等学校であり，卒業試験（Abtur）に受かれば自動的に大学に進学できるが，非常に難しく半分以上の生徒はパスできない。その場合，浪人して次の年に受験するのだが大部分はあきらめて他

の職業機関の学校へ転校していく。

私は１９７４年１０月からRealshule で週１２時間，１９７５年３月からGymnasiumで１６時間，計１週間に２８時間スポーツの授業を担当している。それぞれの学校は午前中（７時４５分から１３時まで）４５分単位で６時間の授業が行なわれ午後は自由である。なおGymnasium の１１年生から１３年生は午後からも専門科目の授業が行なわれている（将来大学へ進むための専門予備授業）。生徒や先生は自分の授業時間の時だけ学校に来れば良く，例えば月曜日の３，４，５時間目の授業があればそれだけに出席してすぐ学校から帰れる。２学期制で，８月または９月（州によってまちまち）から始まり，１月までが１学期，２月から７月または８月までが２学期である。学期末には成績が出され，成績の良くない生徒は学期中でも落第していく。成績のつけ方は日本と逆で「１」から「５」をつけ，「１」が一番良く数が多いほど悪くなり，「６」になると落第となる。

学校は大部分が市立であるが，私立もないわけではない。私のいっているGymnasium は私立で，Evangelisch Gymnasiumという名がついている。つまりプロテスタント派の教会が経営する学校の意である。しかし市立も私立も授業内容など全く同じであり，ただ給料その他の資金が，市立の場合は州が，教会の場合は教会事務所から出てくるだけの違いである。

それでは次に授業内容について（ここではRealschule と Gymnasium について）述べることにする。

科目は国語（Deutsch），数学（Mathematik）英語（Englisch），生物（Biologie），物理（Physik），化学（Chmic），芸術（Kunst）体育（Leibesübung），宗教（Religion），フランス語（Franzosisch），ラテン語（Latainisch）などが主なものであり，これに若干の授業が加わる。

芸術は６年生まで，フランス語は７年生からラテン語はGymnasium のみ行なわれている。また週に一回，ホームルーム（Ovientierung）が担任の先生によって行なわれている。先生が病気や出張の時には交通規則などの特別な授業が加わる。かの有名な性教育についても毎週行なわれているわけではなく，このような時間を利用して実施されるのである。

クラスは２０名から３０名で男女共学である。（まれには女生徒だけの学校もある）。一校５００名程度で，大きいところは1,５００名を越す場合もある。

その他の学校として，日本の夜間学校と同じようなAbendschule がある。また近年，Grundschule，Hauptschule，Realschule，Gymnasium，を全部合せたGesamtschule（総合学校）が一地方にひとつ位の割合で建設されつつあるが，将来はほとんどがこの学校になるものと予想される。

では体育の授業について。

ドイツ語で体育はLeibesübung または Leibeserziehung と呼ばれ，学校によって

はスポーツ（Sport）またはTurnenという授業科目になっている。一般にはSport で通っている。なお，Turnen という言葉は広い意味をもっており，スポーツという意に解する場合もある。日本訳では「ツルネン」となっているが，ドイツ語ではT．Uと続く場合はトゥと発音されるので「トゥルネン」が正しい発音である。

授業は週2回（州によっては3回）行なわれ原則として男女別々である。各学校は大体体育館をもっているが，ごく少数の学校はもっていないこともある。その場合はバスで市の体育館に行き授業を行なう。体育館はHalle（ハレ）と呼ばれ大きさによって呼び方が違ってくる。一番小さな12m×12m位のものはGymnastikhalle（Raum）で，徒手体操やギムナスティックを行なう。大きさが12m×25m位のものはTurnhalle と呼ばれ，大体の学校はこのTurnhalle と Gymnastikhalle をもっている。生徒数の多い学校はSporthalle と呼ばれる体育館をもっており，これはバスケットコートが3面とれる大きさである。Sporthalle の場合は大体観覧席を設けてあるが，Turnhalle以下には設けられていない。

各体育館には管理人（Hausmeister）がおり，午前中の学校体育から午後のスポーツクラブの使用まで一切を管理する。体育館は市の管轄で，午後からは市民に解放する。つまり管理人は市の職員であり，体育館の2階には住居があって午前中から夜の10時頃まで体育館が使える仕組みになっている。有名なGoldenplanによって体育館や競技場が大分建設されたがまだまだ足りないというのが現状である。

話を学校体育に戻そう。前述の通り学校では週2回体育があるが，これでは少なすぎる。それは当局者も認めているが，日本と比較した場合，まず考えられることは気候の差ではないかと思われる。ドイツの冬はとても厳しい。冬に日本と同様の屋外授業はまず不可能なのである。10月になれば日中の気温は10℃以下になり朝は0℃以下まで下がる。しかも8時頃になってやっと外が明るくなりかけるのである。一番厳しい12月～2月は日中でも0℃以下であり今年などは，1ケ月近くも－10℃以下の気温が続き，－27℃という記録的な寒さの日があったほどである。また，各学校にグランドがないというのも理由となろう。大きな学校はグランドをもっている場合もあるが，殆んどの学校はもっていないのが実状で，一番気候の安定する6，7月にはバスで市の競技場まで行って授業を行なう。気温の高いときは水泳も実施される。子供達は遠足ムードに大喜びする。これらの一切の経費は市が負担する。

このように天候の悪いドイツでは太陽に対する欲望が非常に強く，ドイツ人は日光浴や散歩が大好きである。たとえば，日本では考えられないことだが，午前中の気温が25℃以上になると学校は授業を中止して生徒を帰す。授業をやるよりも屋外で遊んだ方（Hitzefrei）が健康に良いというのである。ドイツ人は「健康」（Gesundheit）という言葉を好む。しかしこのHitzefreiも年に5回もあればいい方であ

ってそれほど寒さが厳しいドイツなのである。従って授業も体育館に限られてくる。

１９７４年，サッカーのワールドカップがドイツで開催され，ドイツが優勝したことは気憶に新しいが，とにかくドイツのサッカー（Fußball）熱は高い。またハンドボール（Handball）の生まれた国である。

なぜこのようなことを突然書いたかというと子供達がサッカーやハンドボールが大好きであることを説明したかったからである。日本の子供達が野球をやりたがるのと同じ心理である。このサッカーも体育館で行なわれる。体育館は大部分がブロックで出来ており，窓はボールが当っても割れないような頑丈な造りになっている。

私は当初，ドイツの学校体育についての知識があまりないまゝ授業を受けもったため，最初は生徒の好む種目をやらせていたが，徐々に体操（器械）や他の球技をやり始めると，かなり生徒達の不満をかったものである。しかし，最近では私のやり方が理解されてきたせいか，何んとか器械体操にも熱心に取り組んでくれるようになった。

ドイツの体育館はよく工夫されており，器具も揃っている。跳び箱（Kasten），マット（Matte），馬（Bock），平行棒（Barren），それに屋内での鉄棒（Reck）などがあり，それぞれ４台ぐらいづつ配備されている。しかし残念なことには，これらのりっぱな器具もあまり使われていないのが実状であり，どうしても球技中心の授業になっている。

前述のように，週２回の体育だけでは不充分であり，各州の教育者（Kultusministerium）は学校体育の充実を大きな目標にしている。しかしまだまだ程遠いといった感がある。そこで少ないスポーツでは満足できない子供達が，午後からスポーツクラブへと通うことになる。ドイツの学校にもクラブ活動（Arbeitegemeinschaft（A・G））があり，体操，サッカー，ハンドボール，水泳などが行なわれている。A・Gは年に１，２回の試合があり，各地方，州，そしてドイツ選手権と進む仕組みになっているが，少数しか参加していないのが現状であり，これからの課題でもある。

以上大まかにドイツの教育制度と学校体育についてみてきたが，日本の現状についてよく質問をうける。そこでいつも問題になるのは，ドイツでは学校体育の充実を計ろうとしているのに反し，日本では学校体育よりもスポーツクラブへ進もうとしている点である。このことがドイツ人には理解できないらしい。

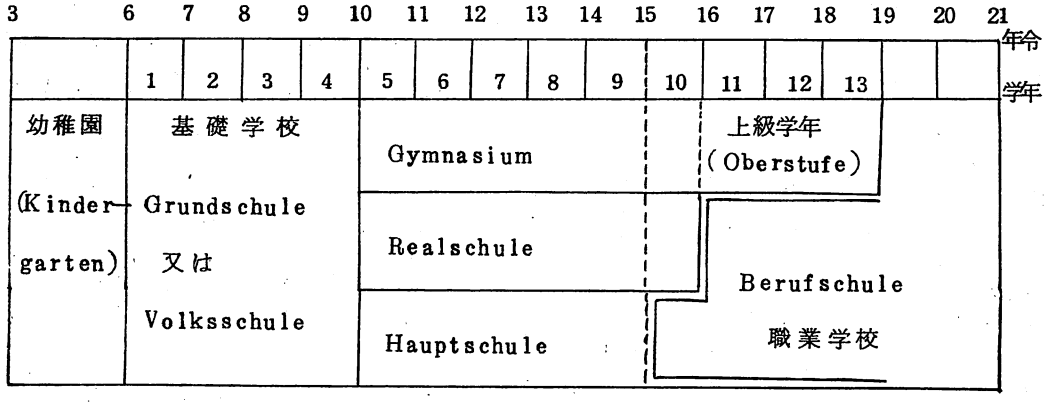
スポーツクラブへは自由意志で参加し，自分の好きな種目しか行なわれない。しかも大多数の子供達は入会していないのが現状であり，親や関係者は学校体育の充実を計って，子供達に教育の一環としてのスポーツに参加させることを望んでいるものと思われる。

私もドイツでの仕事とその生活を通じて，やはり学校体育の充実が急務であると感じている。日本がどのような方向へ進むのか興味深いことである。

次号では，ドイツのスポーツを支えているスポーツクラブについてお知らせしたいと思っています。

こちらに来て約3年半になりますが，私の語学力はまだまだです。指導するにしても，いちいち見本を示さなくてはなりません。体操からかなり長い間離れていたこともあって，その疲れることといったら大変なものです。

とにかく何んとかがんばっております。



独語・体操用語

今村　悟

体操用語は独語でTurnsprache（トウルンスプラッヒェ）と呼ばれ，今日の日本体操界でも独語が用いられることが多いと思われるので，今回は用具と床運動の用語についてお知らせします。その他の種目については次号でお知らせします。

なお，F・I・G・（独語ではI・T・B・）用語，つまり規定問題や難度表解説はもっと複雑な用語が用いられていますが，ここでは一般的に使われている用語を示しました。

体操 Turnen（トウルネン），器械体操 Geräte turnen（ゲレーテ　トウルネン）体操競技Kunst turnen（クンスツ　トウルネン），新体操Gymnastik（ギムナスティク）新体操競技 Wettkampf gymnastik（ウェカンプ　ギムナスティク），床運動 Boden turnen（ボウデン　トウルネン），あん馬 Seitpferd（ザイップフェルツ），つり輪 Ringe（リンゲ），跳馬Pferd sprng（プフェルツ　シュプルング），平行棒Barren（バーレン），鉄棒Reck（レック），段違い平行棒Stufen barren（スッフェン　バーレン），平均台Schwebebalken（シュヴィーベバルケン），規定問題Pflichtübung（プリヒックウーブング），自由問題Kürübung（クァーウーブング），開始技Angang（アンガング），終末技Abgang（アプガング），審判Kampfrichter（カンプリヒター），マットMatte（マッテ），エバーマットDicke Matte（ディッケマッテ），跳箱Kasten（カステン），ロイター板Reuther Brett（ロイタープレット），炭酸マグネシウムMagnesium（マグネシウム），トランポリンTrampolin（トランポリン），プロテクターReckriemen（レックリーメン），体操用品Turnzeng（トウルンツォィク），試合ズボンWettkampfhose（ヴェッカンプホーゼ），短パンKurzhose（クルツホーゼ），体操シューズTurnschuhe（トウルンシューエ），前転Rollevorwärts（ロレフォアヴェルッツス）後転Rollerückwärts（ロレリュックヴェルッツス），屈膝姿勢Hocke（ホッケ），開脚姿勢Grätsche（グレッチェ），倒立Handstand（ハンドスタンド），前後開脚座Spagart（スパガーツ），屈伸Bücke（ブゥッケ），ブリッジBrücke（ブリュッケ），前転とびHandstandüberschlag（ハンドスタンドウーバーシュラーク），前転とび（開脚）Schrittüberschlag（シュリッツウーバーシュラーク），とびこみ前転Flugrolle（フルークローレ），伸身とびこみ前転Hechtrolle（ヘヒッロレ），前宙Saltovorwärts（ザルトーフォアヴェルツ），後宙Saltorückー

wärts（ザルトーリュックヴェルッス），後転とFlick-Flack（フリックフラック）側転Rat（ラッツ），側転 $\frac{1}{2}$（ロンダード）Ratwende（ラットヴェンテ），片足側宙Freis Rat（フライエスラーツ），片足前宙Freier überschlag（フライヤーウーバーシュラーク），伸身後宙返りGestrecks salto rückwärts（ゲストレックツサルトリュックヴェルッス），宙返り $\frac{1}{2}$ ひねりSalto halbedrehung（ザルトーハルベドレウング），宙返り1回ひねりSolto ganzdrehung schraube（サルトーガンツドレウングシュラウベ），2回宙返りDoppel salto（ドッペルザルトー），3回宙返りDreifach salto（ドライファーハザルトー）2回ひねりDoppel schraube（ドッペルシュラウベ），3回ひねりDreifach schraube（ドライファッハシュラウベ），バランスStand waoge（スタントワーゲ）

（注）Ü＝UE　Ä＝AE　Ö＝OE

平野平三先生（前体操部々長）定年ご退官

体育学科の生みの親であり，創設期の部長として体操部の育ての親でもあります平野平三先生が，この５月をもって定年退職されました。

先生のこれまでのご尽力を謝し，今後ますますご健康で活躍されますことを祈念して，体育学科主催のパーティーが，さる４月６日，京王プラザホテル４２階高尾の間において催されました。

遠く北海道から駆けつけた卒業生など，約１００名の参会者が，平野先生をかこんで旧交を暖めました。

先生は陸上競技がご専門なので，陸上競技部のＯＢが多数みえたことは当然として，本会からも稲橋会長の特別参加など陸上競技部に次ぐ参加者があり，先生のこれまでのご薫陶に対して感謝いたしました。

先生は今後とも体育学科の講師として後輩の指導にあたられるとのことですので，本会顧問としても今まで通りご指導ご鞭撻いただけるものと思っております。

先生には健康に留意され，今後ますますご活躍されますようお祈りいたしたいと存じます。

ゴルフコンペ成績

第１３回　　５０．５．２９　　千葉国際カントリー

Name	Out	In	Out	Gross	Hdcp	Net	Rank
石　井	５６	５５	５０	１６１	５４	１０７	１
高　田	４９	４７	４３	１３９	１８	１２１	７
早　田	５５	５２	４４	１５１	２４	１２７	１２
橋　口	５５	５２	４７	１５４	３１.５	１２２.５	１１
菊　地	４５	４７	４７	１３９	１９.５	１１９.５	６
小　野※	４６	４７	４７	１４０	３７.５	１０２.５	２
吉　川	４６	５０	４５	１４１	２５.５	１１５.５	３
角　田※	４７	４６	４４	１３８	２２.５	１１５.５	４
稲　橋	５２	５５	４５	１５２	３０	１２２	８
高　橋※	５７	４４	５１	１５２	２７	１２５	９
山　中	３７	４１	４１	１１９	１.５	１１７.５	５

Name	Out	In	Out	Gross	Hdcp	Net	Rank
阿　部※	48	52	45	145	13.5	131.5	14
鶴　見	51	56	51	158	33	125	9
津　村	41	51	52	144	13.5	130.5	13
高　波	64	63	71	198	54	144	15

※印　会員外参加者

優　勝　石　井

準優勝　小　野※（初参加のため）

3　位　吉　川

D．C　津　村　　N．P　小　野※

B．G　山　中　　B・B　阿　部※

第14回　50. 9. 2　総成カントリー

Name	Out	In	Gross	Hdcp	Net	Rank
高　田	39	41	80	12	68	1
稲　橋	46	45	91	20	71	2
菊　地	40	45	85	13	72	3
津　村	42	39	81	9	72	4
山　本	51	46	97	24	73	5
鶴　見	44	52	96	22	74	6
茂　木※	49	54	106	25	78	7
工　藤	58	48	106	24	82	8
阿　部※	45	48	93	9	84	9
角　田※	41	60	101	15	86	10
綱　島	61	63	124	36	88	11
石　井	60	61	121	28	93	12

優　勝　高　田

準優勝　稲　橋

3　位　菊　地

D．C　山　本，津　村　　B．G　高　田

N．P　角　田，角　田　　B．B　綱　島

会費領収について

昭和５０年４月４日以降５１年２月５日までの会費納入状況は次の通りです。

〔現金にて〕

6／4	木村多喜	2,000
〃	福田久恵	2,000
〃	谷田部光則	2,000
6／15	小柴守夫	2,000
〃	近藤明	2,000
6／16	原弘吉	2,000
〃	鶴見興人	2,000
6／25	小栗郁郎	2,000
〃	早川尚夫	2,000
〃	柄沢康弘	2,000
〃	石井征也	2,000
〃	海谷美代子	2,000
7／1	菊地君男	2,000
7／4	稗田房子	2,000
8／6	武田昇	8,000
8／7	今村悟	2,000
〃	志賀正昌	3,000
〃	波多野伸	7,000
〃	箱根修	2,000
〃	伊藤寛美	2,000
〃	船木政明	2,000
〃	米田賢一	5,000
51 2／5	木村多喜	2,000
〃	岡田洋二	2,000
2／5	青木久実	2,000
〃	柳富雄	2,000
〃	宮本敏子	2,000
〃	大貫正	2,000
〃	栗原良孝	2,000
〃	長谷川金松	2,000
〃	鈴木一弘	2,000
〃	石毛英三	2,000
〃	岡崎恭児	2,000
〃	前山真一郎	2,000
〃	千葉勉	2,000
〃	寛山秀成	2,000
〃	増子良行	2,000
〃	佐野静雄	2,000
〃	酒井清	2,000
〃	大津卓也	2,000
〃	市川晴久	2,000
〃	五十嵐仁一	2,000
〃	須賀京子	2,000
〃	宇都木元美	2,000
〃	松山禎一	2,000
〃	中川鈴俊	2,000
〃	梶山広司	2,000
〃	山宮登美枝	2,000
〃	下田良子	2,000
〃	山本恭子	2,000
〃	中島節子	2,000
〃	丹野優子	2,000

〔口座にて〕

4／4	真島孝礼	11,000

6/20	高波司雄	2,000
6/24	伊藤　潔	2,000
〃	菅野秀俊	2,000
〃	松本恭子	2,000
〃	岩沢　稔	2,000
〃	田野　哲	2,000
〃	若林みどり	2,000
〃	山崎雅昭	2,000
〃	佐藤　勲	2,000
6/25	堀田信二	2,000
〃	平野文世	2,000
〃	菅原明雄	2,000
6/27	山本好隆	2,000
〃	諸岡嘉春	2,000
〃	阿部　稔	2,000
6/30	今西悦子	2,000
〃	籾山芳雄	2,000
〃	千葉本子	2,000
〃	金子正史	2,000
7/ 1	佐藤　誠	2,000
〃	宇野正信	2,000
〃	中谷秀明	2,000
〃	綱島路正	2,000
7/ 2	高橋房雄	4,000
〃	近藤盛一	2,000
〃	森田　博	2,000
〃	工藤昌二	2,000
〃	川野耕二	2,000
7/ 3	平川文雄	2,000
7/ 5	春山文子	2,000
7/ 8	松岡範孝	2,000
7/ 8	田中章二	2,000
〃	小俣里知子	2,000
〃	伊藤　勇	2,000
7/10	松田　明	2,000
7/11	早田卓次	2,000
〃	相原和明	4,000
7/12	島崎康行	2,000
7/14	安藤泰行	2,000
7/15	水口始女	2,000
7/16	保坂弘一	2,000
〃	浅田泰男	2,000
〃	戸沢　滋	2,000
〃	高田信興	1,000
7/17	武田和子	2,000
7/18	三鼓章平	2,000
〃	工藤道弘	5,000
7/22	川口　亨	2,000
7/23	藤田幸男	2,000
〃	村上吉正	2,000
7/24	椎野芳拳	2,000
7/28	森　重樹	2,000
〃	藤沢秀男	2,000
〃	山内　悟	2,000
7/30	大塚文夫	2,000
〃	塚田和茂	2,000
8/ 7	中島　孝	2,000
8/ 8	中島　元	4,000
8/16	飯島好美	2,000
8/19	仲西盛光	5,500
8/20	平野昌宏	2,000
8/22	森山　理	2,000

9／1	芳尾　明	2,000	12／24	椎名　昇	2,000
9／12	千野良一	2,000	51 1／15	斉藤由子	5,500
10／4	舟山忠広	2,000	1／30	酒井博行	2,000
11／19	鈴木康夫	2,000			

＝お知らせ＝

本会関係のオリンピック代表選手ならびに役員の壮行会を下記により開催いたします。
ぜひご出席下さいますようお願い申し上げます。

記

日時　6月20日（日）午後6時30分より
場所　国電原宿駅前「南国酒家」
　　Tel（400）0031
会費　5,000円（女子会員は3,000円）

※6月18～20日まで駒沢体育館にて東日本インカレが開催されており，日大は20日に出場いたします。男子団体で連勝記録を伸ばすことができるかどうか，大切な試合です。応援方々壮行会にもご出席下さいますようご案内申し上げます。

昭和51年度会費は，同封の振替用紙をご利用のうえ，6月30日までに納入して下さい。

編集後記

西ドイツからの今村君の原稿を整理し終ったのは5月4日のことである。翌5日の朝日新聞学芸欄に次のような記事が載った。彼の報告を読んだあとだけに非常に興味をそそられたので少し長くなるがその全文を引用してみよう。

（注）この記事は〃子供の日〃の特集として「子どもの世界お国ぶり拝見」の中の西ドイツの項である。

……

ここにも進学の悩み，幼い自殺がふえる

☆ 西ドイツ

勉強苦が原因のローティーンの自殺が西独でふえている。その数は，昨年の10月からババリア地方だけでも12人を数えると「ニューズウィーク」誌は報じている。

ドイツでは，10才になると，相次ぐ試験によって大学受験組と就職組に決められてしまう。いずれの道もけわしいが，そのために，たかだか9才の子どもたちは，学校の授業も含めて1日10時間は勉強しなければならない。それが子どもには重荷になり，思いつめての自殺ということになる。

一小児科医は「子どもを傷つけるのは，勉強

の量ではなく，勉強しなかったら自分には未来がないという恐れで，その重圧は耐えられないものだ」と言っている。

当然これは社会問題化しており，小学校での成績採点を廃止する決議案を通過させようとする議会内のグループもある。

「子どもたちはいま〃一休み〃を必要としている」というが，日本の子どもについてもそれは言えそう。

……

「子どもたちはいま〃一休み〃を必要としている」という一節は，まさに子ども本来のあり方，すなわちのびのびと運動し，大いにあばれまわることの大切さを説いているのではないだろうか。

最近，日本でも中学校の体育削減案などが出されて物議をかもし出している。

われわれ体育を担当する者として，当然このような暴挙に抵抗しなければならないし，子どもたちの将来を考えたとき，現在の受験制度についても改めて考えてみる必要がありそうである。

会員のなかには，学齢期を迎えたお子さんをもつ人が沢山おられる。そのほとんどの人が，自分の運動経験を通して，「わんぱくでもいい……」的育児を願っているに違いない。しかし現実を考えた場合，やはり教育ママや，教育パパにならざるを得ないのではないだろうか。

今村君の報告によれば，西独において学校体育の充実を計ろうとしていることが知られる。いま日本では，確かにスポーツ教室（クラブ）の普及は目ざましい。現に会員名簿にはそうした職業が数多く見受けられる。しかしまだまだその対象は限られている。わが国でも，西独同様，学校体育の充実こそ急務であると思われる。

かえるの子はかえる，会員諸兄姉の子弟が世界の檜舞台で活躍されることを夢みる。

菊地記